

教 育 研 究 業 績 書		
令和 5年 5月 1日		
氏名 及川 けい子 印		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
看護学	認定看護師 自己啓発行動	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 大学から受け入れた学生への実習指導	平成10年度～ 平成12年	目白大学看護学部の実習生の受け入れ、指導を経験。循環器実習指導者メンバーのリーダーとして老年分野での指導を実施。
2) 研修会講師 ①集中ケア研究発表会講師	平成21年度	「重症な心不全状態にある患者に対する日常生活援助の考察」—ダブルプロダクトを指標にして実施したケアの検討— 左冠動脈主幹部の病変を持ち、循環作動薬などで、循環を維持する必要があった重症心不全状態の患者に対する日常生活を、酸素消費量を増大させないよう、ダブルプロダクト（DP）を指標に日常生活援助を実施。経腸栄養実施前後のDPを測定したところ、20%以上の変動が生じた。機能的残気量の増加を考慮し、誤嚥も防ぐ目的からヘッドアップしたが、重度の心機能低下をきしている患者に対し、経腸栄養開始直前の体位調整が大きな負担になることがわかった。
②大宮日赤病院勉強会講師	平成21年度	「見逃していませんか？経腸栄養のタイミング」—ICU患者の症例— 侵襲をうけた重症患者の生体反応から、高サイトカイン血症（SIRS）となり、白血球の遊走・活性化、主要臓器への白血球の集積、血管内細胞障害がおこり、炎症反応が全身に起きる。白血球活性化が生体防御の枠を超え、臓器不全に陥る。腸内細菌の侵入によりBacterial Translocationがおこるため、早期の経腸栄養開始が望ましい。Moorの生体反応の表の干潮期からエネルギーと蛋白の供給が必要な満潮期へ移行した時期が望ましいと考える。
③水戸医療センター看護公開講座	平成26年10月	「フィジカルアセスメント-呼吸音-」 肺の構造、聴診器の使用法、肺音聴取方法と部位の説明。正常呼吸音と異常呼吸音の違いを音源を流し聞き取りの練習を实践。異常呼吸音からの考えられる疾患の説明を行う。

<p>④水戸医療センター看護公開講座講師</p> <p>3) 院外講師 ①朝霞地区看護学校講師</p> <p>②目白大学院認定看護師コース講師（脳卒中リハビリ認定看護師）</p> <p>③桜の郷看護学校講師</p> <p>④日本救急学会BLS／ICLSインストラクター</p>	<p>平成28年</p> <p>平成23年～24年</p> <p>平成23年</p> <p>平成26年～現在</p> <p>平成25年～現在</p>	<p>「人工呼吸器看護」 呼吸器の考え方を酸素化と換気に分けて考えることを説明。人工呼吸の目的と人工呼吸器モードの説明。気管の解剖生理、人工呼吸管理中患者の管理に必要な観察項目、肺ケア（体位ドレナージ）人工呼吸管理中の口腔ケアについて画像を用い説明。</p> <p>呼吸器疾患を持つ患者の看護 肺の解剖整理、換気、酸素化の説明。様々な肺疾患とその治療、看護についての講義実施。</p> <p>脳疾患のフィジカルアセスメント 様々な身体症状から、脳疾患をアセスメントする講義を実施。意識レベル判定ツールの説明。脳障害からくる異常呼吸、瞳孔不同、対光反射などのアセスメント方法。</p> <p>成人看護学：生命維持機能に障害のある成人の看護 <呼吸機能障害> 呼吸器疾患を持つ患者の治療、看護を講義。</p> <p>BLS／ICLS BLS：一次救命処置方法を実践指導を行い、院内外で急変した人、患者に対し、意識の確認、人工呼吸、胸骨圧迫を行い、救急隊や医師に引継ぐまでの間に行う蘇生方法を指導。AEDのデモ機を使用し、その使用方法を指導。 ICLS：医療従事者のための救急蘇生方法の指導を行う。様々な症状を呈した患者をアセスメントし、その対処方法を実践できるよう指導を行う。</p>
<p>5 その他</p>		
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
<p>事項</p>	<p>年月日</p>	<p>概 要</p>
<p>1 資格、免許 看護師免許 集中ケア認定看護師</p>	<p>平成4年5月1日 平成22年6月</p>	<p>第781661号 第6299号</p>
<p>2 特許等</p>		
<p>3 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 認定看護師としての取り組み</p>	<p>平成22年～現在</p>	<p>クリティカルな患者の看護、その家族への看護が専門性を持って実施できるよう、集中治療の場での直接的なスタッフへの指導を実践。 RST（人工呼吸器サポートチーム）を他職種と結成し人工呼吸器装着中の患者の院内ラウンドを行い、安全な医療が提供できるようサポート実施。 人工呼吸器関連肺炎（VAP）発生予防の指導として、口腔ケアの方法、体位の調整、肺ケアの実践等の直接的指導を行う。挿管による皮膚、口腔内のトラブルなどの相談を受け、回診を実施している。 院内、院外への公開講座を行い、人工呼吸器装着中の患者の看護として口腔ケアの方法、肺ケアの方法を伝達している。 院内での急変対応として、看護職以外にも他職種を対象に、BLS研修を行っている。</p>

2) 看護師長としての取り組み	平成25年～現在	<p>心臓血管外科、循環器内科病棟と集中治療室（ICU）を併任で看護師長として勤務。 心臓外科術前術後等、大手術後の患者の受け入れ、虚血性心疾患、不整脈、重症心不全等の患者の受け入れ、また、院内発症の急変受け入れを行っている。 クリティカル看護が必要である病棟であるため、スタッフ教育を段階的に行えるシステムを考案。 一般床看護、心臓カテーテル看護、心臓血管外科術前術後看護、急変時看護、人工呼吸器装着中の看護等を計画し、病棟内教育の確立を図る。 専門性のある看護が必要とされるため、呼吸療法認定士、IVR（Interventional Radiology）ナースの育成を行い、看護スタッフが資格取得をした。看護学生の実習受け入れ態勢を整え専任実習指導者を育成。</p>		
4 その他				
研 究 業 績 等 に 関 する 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 1. 組織における認定看護師の自己啓発行動と支援 Self-development action and support of Certified Nurses in an organization (修士論文)	単著	平成25年1月	目白大学大学院	認定看護師の組織における背景、処遇と資格更新に必要な自己研鑽ポイントを取得するための行動、活動をどのように実施し、自己啓発行動をとっているのか明らかにしたいと考えた。その行動は個人的な行動であるのか、施設長（看護部長）の施設として考える認定看護師の処遇、支援方法が整備されているのかなど明らかにすることを目的とした。考察として管理者は、認定看護師の評価者として、認定看護師の状況を情報として得る手段を持ち、問題となる部分を早期に組み上げて社会的・教育的配慮により対処することが大切だといえ、その手段、支援方法として評価ツールは必要と考える。
(その他) 「総説等」 1. 心臓血管外科手術後の看護	共著	平成24年9月	HEART nursing 2012年9月号 p37～p40	検査について、術前、術直後から術後の段階別ケアに分別し、虚血性心疾患、弁膜症、大動脈疾患、心臓大血管、心臓外合併症心臓合併症についてそれぞれの必要とされる検査、観察点を説明。 担当部分：心臓血管外科手術前後に必要な観察とケアおさえどころリスト 検査に係る観察とケア 共著者：国立循環器病研究センター 永井利幸 慶應義塾大学 香坂 俊、及川 けい子
「学会発表等」 1. 当病棟における内服基準、手順を用いた服薬指導の効果—チェックリストを活用して—	一	平成20年11月	第62回 国立病院総合医学会（東京）	当病棟は、主に循環器内科、心臓血管外科の患者が入院し、治療を受けている。心不全患者は入退院を繰り返すことが多い。退院後も継続した正しい服薬ができていないことも再入院の際に確認されることもある。入院中、看護師個々の判断で退院後の生活を見越した服薬指導を行っていたが、内服のし忘れや、間違いなどが起こっていた。看護師管理から、患者管理まで、アセスメントシートや、チェックリストを作成し用いたことで入院中の服薬間違いがなくなった。

<p>2. ICU入室における患者の不安を軽減するための術前ICU見学の検討 ー患者ニーズの把握による改善点の明確化ー</p>	<p>ー</p>	<p>平成28年11月</p>	<p>第70回 国立病院総合医学会（沖縄）</p>	<p>当ICUは主に心臓血管外科患者と術後のハイリスク患者や院内発症の救急患者を受け入れている。術後ICUに入室する患者は手術に対する不安に加え、ICUという未知なる環境に対する不安があることが予測される。それらの不安を軽減する事を目的に術前にICU内の見学、またICUの環境や術後に予測される状況について説明を行っている。術後ICUに入室する患者の不安内容やニーズを把握し、不安を軽減するための当ICU見学のあり方を患者へのインタビューを行った。その結果、家族と一緒に見学を行えるように予定調整を行い、ICU見学前後の患者と家族の受け入れや理解度、反応を看護師間で情報共有することや対応する看護師によって接遇や説明内容は患者に合わせた説明と共に見学が行えるようにすることが必要であることが分かった。</p>
--	----------	-----------------	---------------------------	--